

大学新入生の自閉症スペクトラム傾向が 友人関係満足感に及ぼす影響 — 個人・環境要因の保護機能に注目して —

○水野雅之 (筑波大学)
金子 楓 (筑波大学)

小林矩子# (筑波大学)

キーワード：大学新入生，自閉症スペクトラム傾向

問題と目的

近年，自閉症スペクトラム（以下，ASD）傾向のある大学生が増加している（日本学生支援機構，2016）が，大学生活は高校生活に比べ自由度が高く，ASDのある学生は大学不適応に陥りやすいことが指摘されている（高橋，2012）。しかしながら，このような知見は ASD 学生への支援に関する事例研究において主に示されており，数量的なデータとしては示されていない。

そこで，本研究では大学新入生の ASD 傾向が大学適応に及ぼす影響を検討する。なお，本研究では，大学適応の指標として，友人関係に着目する。加えて，適応を促す保護機能を持った個人・環境要因を明らかにすることとした。

方 法

調査手続き：2017年4月に，大学の講義の前後の時間を用いて質問紙調査を実施した。

調査対象者：関東圏の大学3校の大学1年生280名（平均年齢=18.08， $SD=0.26$ ，男性31名，女性249名）。

調査内容：(1) デモグラフィック変数（学年，年齢，性別），(2) 自閉性スペクトラム指数短縮版（Kubota et al., 2005），(3) KISS-18（菊池，1988），

(4) 認知的統制尺度（甘利・馬岡，2002），(5) 知覚されたソーシャル・サポート尺度（福岡・橋本，1997），(6) 友人関係満足感尺度（加藤，2001）

結果と考察

ASD 傾向が友人関係満足感に及ぼす影響，および，適応を促す個人要因・環境要因を明らかにするために共分散構造分析を実施した。第1水準に ASD 傾向，第2水準に個人要因（ソーシャルスキル，認知的統制）と環境要因（知覚されたソーシャルサポート），第3水準に友人関係満足感を配置したモデルを検討し，有意でないパスを削除しながら分析を続けたところ，Figure1 のモデルが得られた。

その結果，ASD 傾向自体が友人関係満足感を損なうのではなく，ASD 傾向によってソーシャルスキルの欠如や破局的思考，学外の友人からのサポート不足がもたらされ，友人関係満足感が低下することが示された。

以上より，ASD 傾向のある大学新入生を支援する際には，認知行動療法（ソーシャルスキルトレーニングや認知再構成法）と学外の友人からサポートが得られるような環境調整が重要であると考えられる。

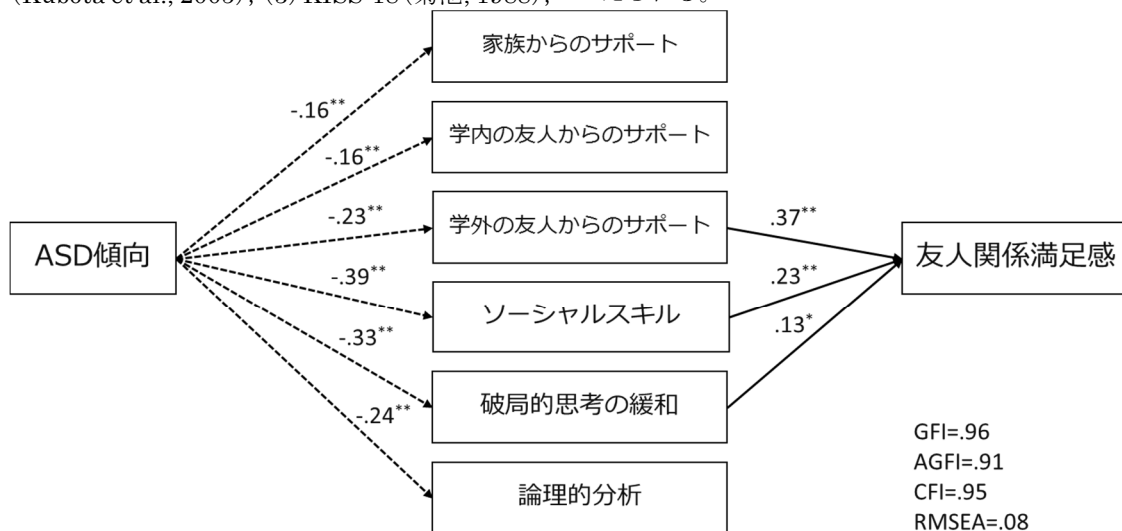


Figure1 共分散構造分析の結果